

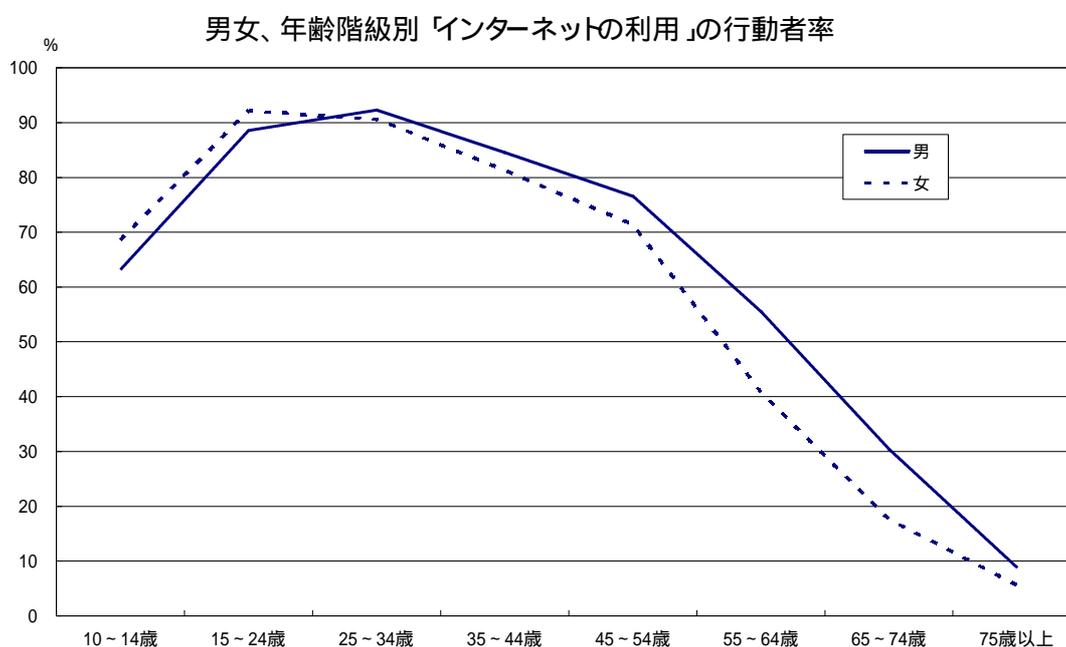
1 インターネットの利用

男性の66%、女性の59%がインターネットを利用

過去1年間（平成17年10月20日～18年10月19日）に「インターネットの利用」を行った人は、78万6千人、10歳以上人口に占める割合（行動者率。以下同じ）は62.2%で、全国平均（59.4%）より2.8ポイント高く、全国で9番目となっている。

行動者率を男女別にみると、男性は66.1%（行動者数39万5千人）、女性は58.8%（39万1千人）となっており、男性が女性より7.3ポイント高くなっている。これを平成13年と比較すると、男性は11.8ポイント、女性は13.5ポイント上昇している。

「インターネットの利用」の行動者率を年齢階級別にみると、男性は25～34歳（92.3%）、女性は15～24歳（92.2%）で最も高くなっている。



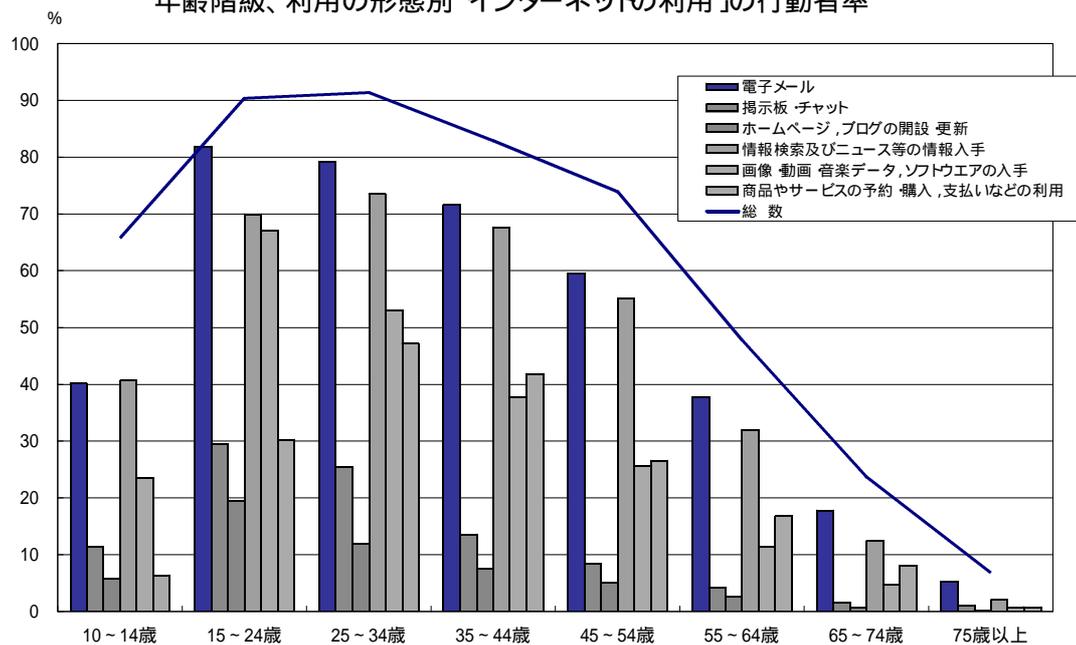
約5割の人が「電子メール」の利用

「インターネットの利用」の行動者を利用の形態別にみると、「電子メール」に利用した人が65万4千人（行動者率51.8%）、ホームページの閲覧などの「情報検索及びニュース等の情報入手」に利用した人が58万5千人（46.3%）、ウェブ上で提供されているデータなどを取り込む「画像・動画・音楽データ、ソフトウェアの入手」に利用した人が36万6千人（29.0%）などとなっている。

これを年齢階級別にみると、「電子メール」に利用した人は15～24歳（81.9%）で最も高く、「情報検索及びニュース等の情報入手」に利用した人は25～34歳（73.5%）で最も高くなっている。

また、「商品やサービスの予約・購入、支払い等」に利用した人は31万2千人（24.7%）で、25～34歳が47.2%で最も高くなっている。

年齢階級、利用の形態別「インターネットの利用」の行動者率



注：「インターネットの利用」は、仕事や学業などで利用したものは除く。

2 学習・研究

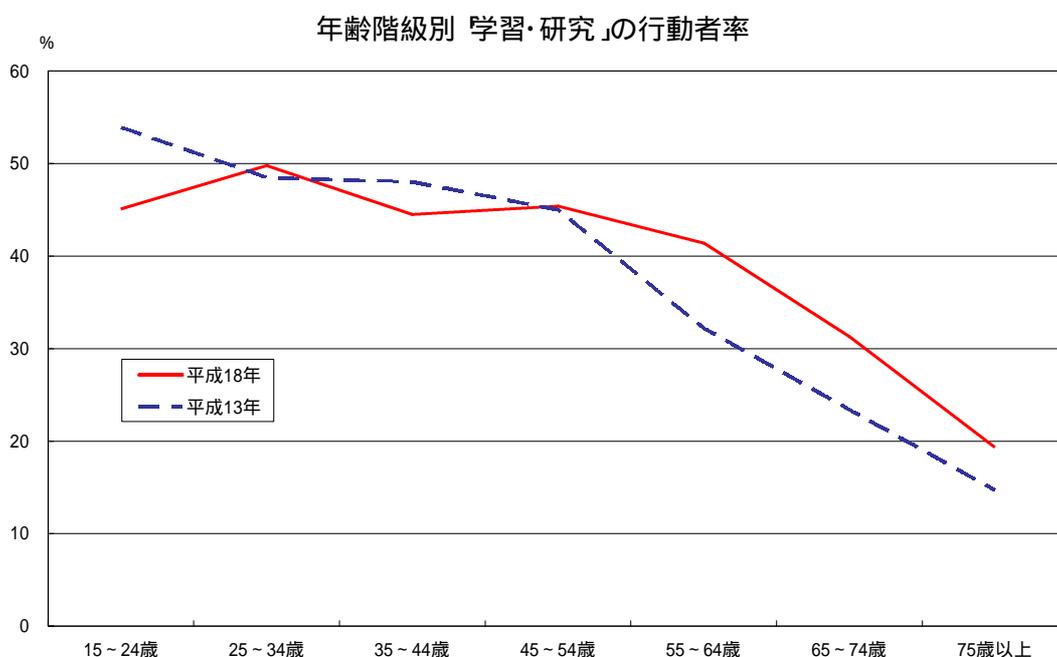
1年間に「学習・研究」を行った人は約52万人、行動者率は約41%

過去1年間に何らかの「学習・研究」を行った人は51万6千人で、行動者率は、40.9%で、全国平均より5.7ポイント上回り、東京都、神奈川県について3番目の高い率となっている。平成13年の行動者率（41.0%）と比較すると ほぼ同じ割合となっている。

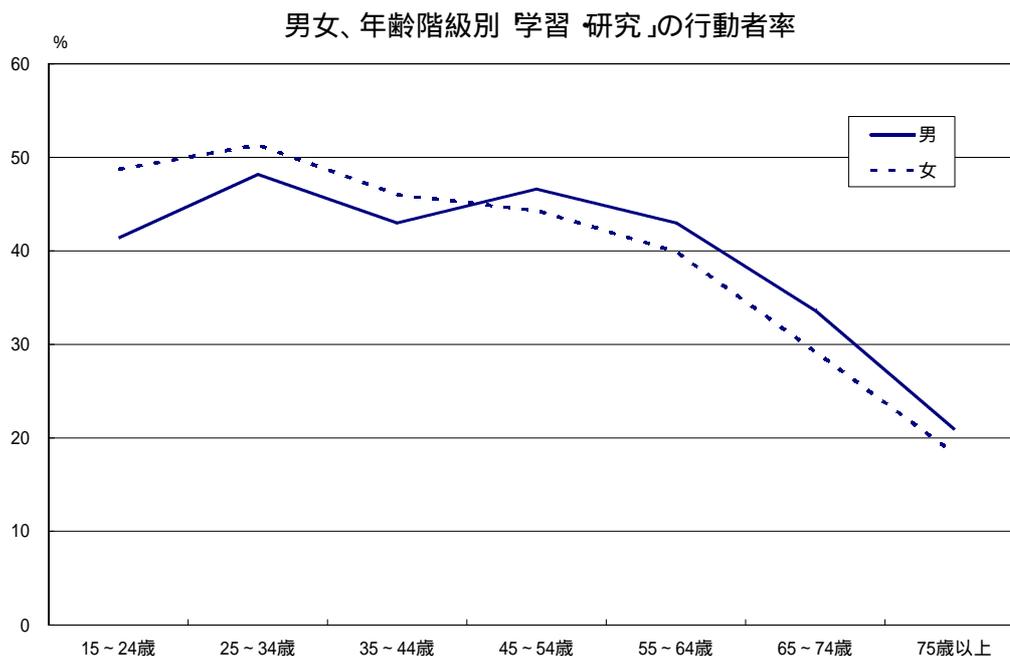
行動者率を男女別にみると、男性は40.5%（行動者数24万2千人）、女性は41.2%（27万4千人）で、女性の方が0.7ポイント上回っている。

15歳から24歳の「学習・研究」の行動者率が低下

「学習・研究」の行動者（15歳以上人口）率を年齢階級別にみると、25～34歳で49.8%と最も高くなっている。平成13年には、15～24歳で最も高かったが、今回は45.1%と9.0ポイント低下した。



また、男女別にみると、15～44歳では女性の方が高くなっているが、それ以外の年齢層では男性の方が高くなっている。



行動者率が最も多いのは「芸術・文化」

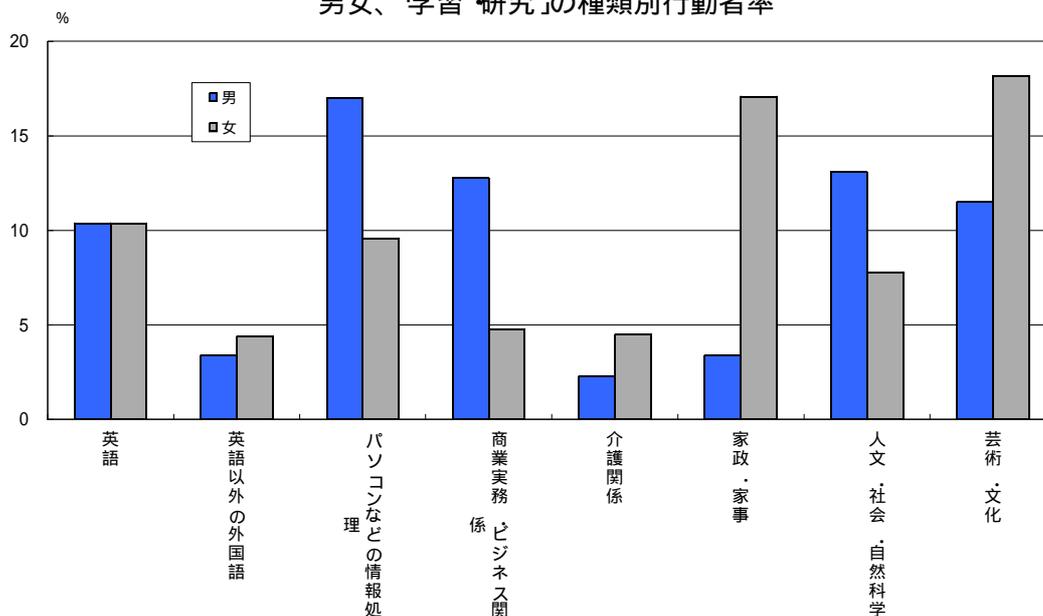
「学習・研究」を行った人をその種類別にみると、「芸術・文化」が19万人（行動者率15.0%）で最も多く、次いで「パソコン等の情報処理」が16万5千人（13.1%）、「家政・家事（料理・裁縫・家庭経営等）」が13万4千人（10.6%）の順である。行動者率はいずれの種類も全国平均より高く、特に「芸術・文化」が3.8ポイント上回っている。

「パソコン等の情報処理」は男性、「芸術・文化」は女性が高い行動率

「学習・研究」を行った人を男女別にみると、男性は、「パソコン等の情報処理」が10万1千人（行動者率17.0%）で最も多く、次いで「人文・社会・自然科学（歴史・経済・数学・生物等）」が7万9千人（13.1%）、「商業実務・ビジネス関係」が7万6千人（12.8%）、「芸術・文化」が6万8千人（11.5%）となっている。

一方、女性は、「芸術・文化」が12万1千人（15.0%）で最も多く、次いで「家政・家事（料理・裁縫・家庭経営等）」が11万4千人（18.2%）、「英語」が6万9千人（10.4%）、「パソコン等の情報処理」が6万4千人（9.6%）となっている。

男女、学習・研究」の種類別行動者率



料理・裁縫・家庭経営など
 歴史・経済・数学・生物など

若年層で行動者率の高い「英語」、青壮年層で高い「パソコン等の情報処理」

「学習・研究」の種類別行動者率を男女・年齢階級別にみると、男性は15～24歳では「英語」が最も高く、次いで「パソコン等の情報処理」、「人文・社会・自然科学」、25～34歳では「パソコン等の情報処理」、「商業実務・ビジネス関係」、「人文・社会・自然科学」、35～44歳では「商業実務・ビジネス関係」、「パソコン等の情報処理」、「英語」、45～54歳では「商業実務・ビジネス関係」、「パソコン等の情報処理」、「人文・社会・自然科学」、55～64歳では「パソコン等の情報処理」、「芸術・文化」、「人文・社会・自然科学」、65歳以上では「芸術・文化」、「人文・社会・自然科学」、「パソコン等の情報処理」の順となっている。

一方、女性は15～24歳では「芸術・文化」が最も高く、次いで「英語」、「家政・家事」、25～44歳では「家政・家事」、「芸術・文化」、「パソコン等の情報処理」、45～54歳では「芸術・文化」、「家政・家事」、「人文・社会・自然科学」、55～64歳では「芸術・文化」、「家政・家事」、「パソコン等の情報処理」、65歳以上では「芸術・文化」、「家政・家事」、「人文・社会・自然科学」の順となっている。

注：「学習・研究」は、社会人の職場研修や児童・生徒・学生が学業（授業・予習・復習）として行うものは除き、クラブや部活動は含む。

3 スポーツ

1年間に「スポーツ」を行った人は約85万人、行動者率は約67%

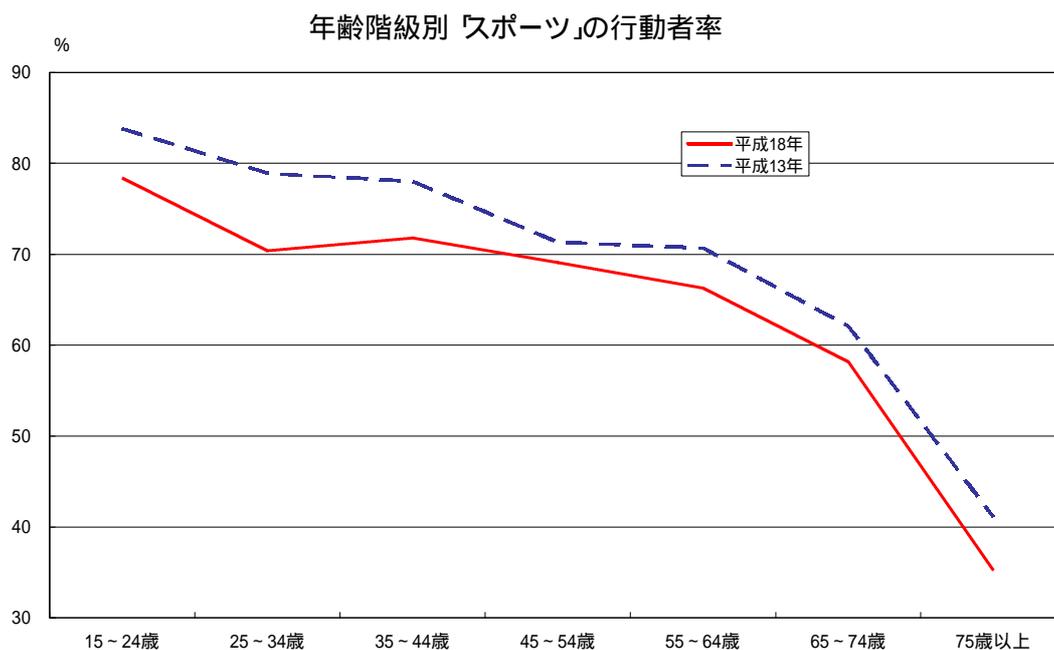
過去1年間に何らかの「スポーツ」を行った人は84万5千人で、10歳以上人口に占める割合（行動者率）は、66.9%で、全国平均より1.6ポイント上回っている。行動者率を平成13年と比較すると、6.0ポイント低下している。

行動者率を男女別に見ると、男性は73.1%（行動者数43万7千人）、女性は61.4%（40万9千人）で男性が女性より11.7ポイント高くなっている。これを平成13年と比較すると男性は6.4ポイント、女性は5.7ポイント、それぞれ低下している。

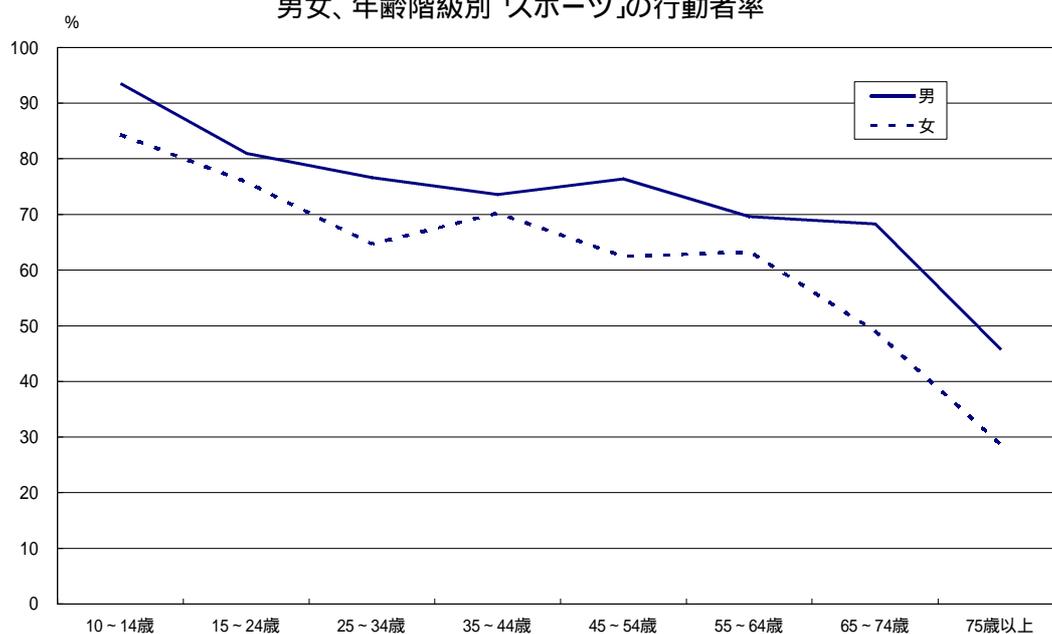
各年齢層で「スポーツ」の行動者率が大きく低下

「スポーツ」の行動者（15歳以上人口）率を年齢階級別にみると、15～24歳が最も高くなっており、年齢が高くなるにつれておおむね低下している。これを平成13年と比較すると、すべての年齢階級で低下している。25～34歳が8.5ポイント低下しており低下幅が最も大きい。

また、男女別にみると、すべての年齢階級で男性が女性より高くなっている。



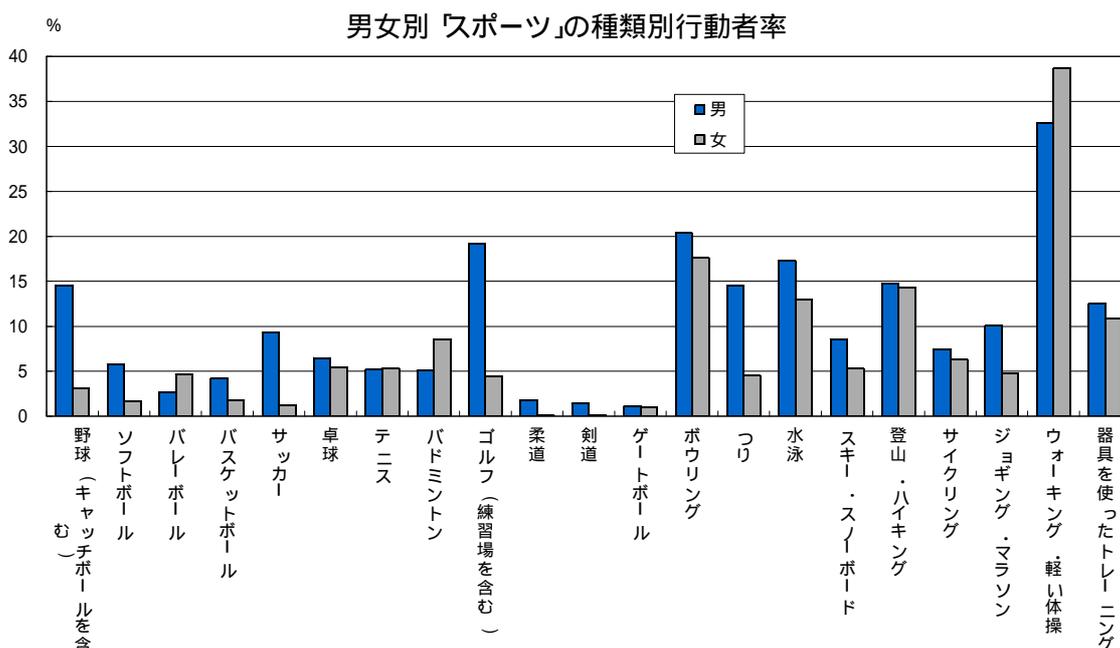
男女、年齢階級別「スポーツ」の行動者率



「ウォーキング・軽い体操」の行動者率は35.8%

「スポーツ」を行った人を種類別にみると、「ウォーキング・軽い体操」が45万2千人（行動者率35.8%）と最も多く、次いで、「ボウリング」が23万9千人（19.0%）、「水泳」が19万人（15.0%）、「登山・ハイキング」が18万4千人（14.6%）となっている。

種類別の行動者率を全国平均と比較すると、「登山・ハイキング」、「ゴルフ（練習場を含む）」、「水泳」の順で上回り、逆に「サイクリング」、「バレーボール」、「ジョギング・マラソン」の順で下回っている。



中高年層では「ウォーキング・軽い体操」の行動者率が最も高い

「スポーツ」の種類別行動者率を年齢階級別にみると、若年層は多くの種類で行動者率が高く、スポーツ活動が盛んである。10～14歳では、「水泳」が最も高く、次いで、「ボウリング」、「野球 (キャッチボールを含む)」などとなっている。15～34歳では、「ボウリング」、「ウォーキング・軽い体操」、「水泳」の順となっている。35歳以上では、「ウォーキング・軽い体操」の行動者率が高くなっているが、2番目以降に高い種類は年代によって異なり、35～44歳では、「水泳」、「ボウリング」、45～54歳では、「ゴルフ (練習場を含む)」、「登山・ハイキング」、55～74歳では、「登山・ハイキング」、「ゴルフ (練習場を含む)」、75歳以上では、「ゲートボール」、「器具を使ったトレーニング」の順となっている。

行動者率が上昇したのは「サッカー」、それ以外の種類で低下

平成13年と比較可能な「スポーツ」の種類について行動者率をみると、平成13年に比べ上昇したものは「サッカー」(0.2ポイント上昇)のみで、それ以外の種類で低下している。低下幅の大きい順に「ウォーキング・軽い体操」(9.3ポイント低下)、「水泳」(7.1ポイント)、「つり」(4.7ポイント)、「ボウリング」(4.3ポイント)などとなっている。

注：「スポーツ」には、職業スポーツ選手が仕事として行うものや、学生が体育の授業で行うものは除き、クラブ活動や部活動は含む。

4 趣味・娯楽

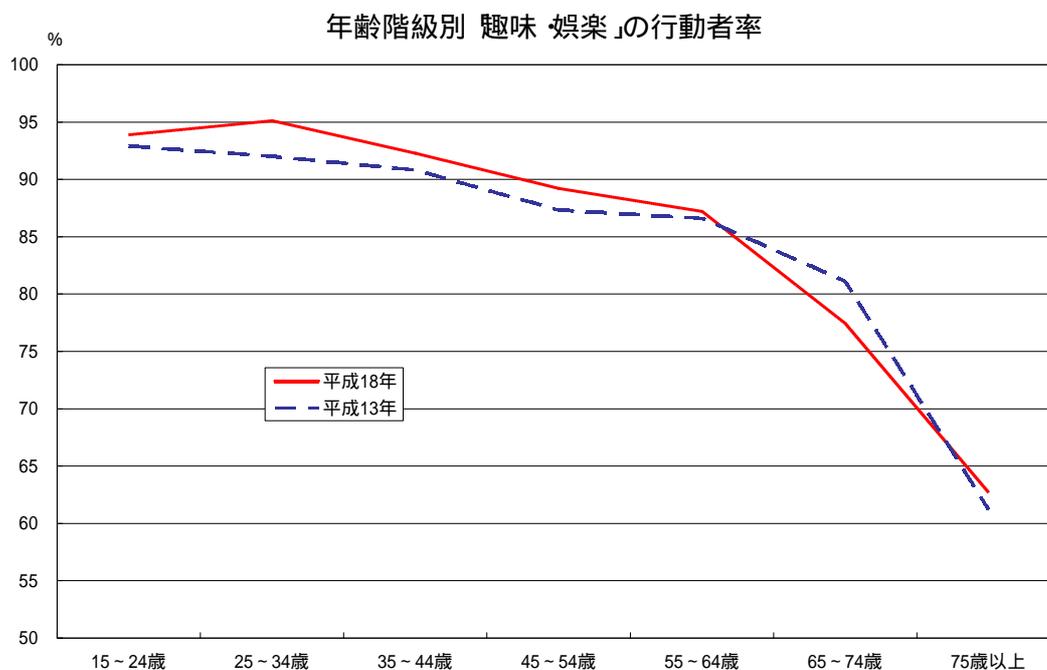
1年間に「趣味・娯楽」を行った人は約110万人、行動者率は87%

過去1年間に何らかの「趣味・娯楽」を行った人は109万9千人で、10歳以上人口に占める割合（行動者率）は、87.0%で、全国平均より2.1ポイント上回っている。

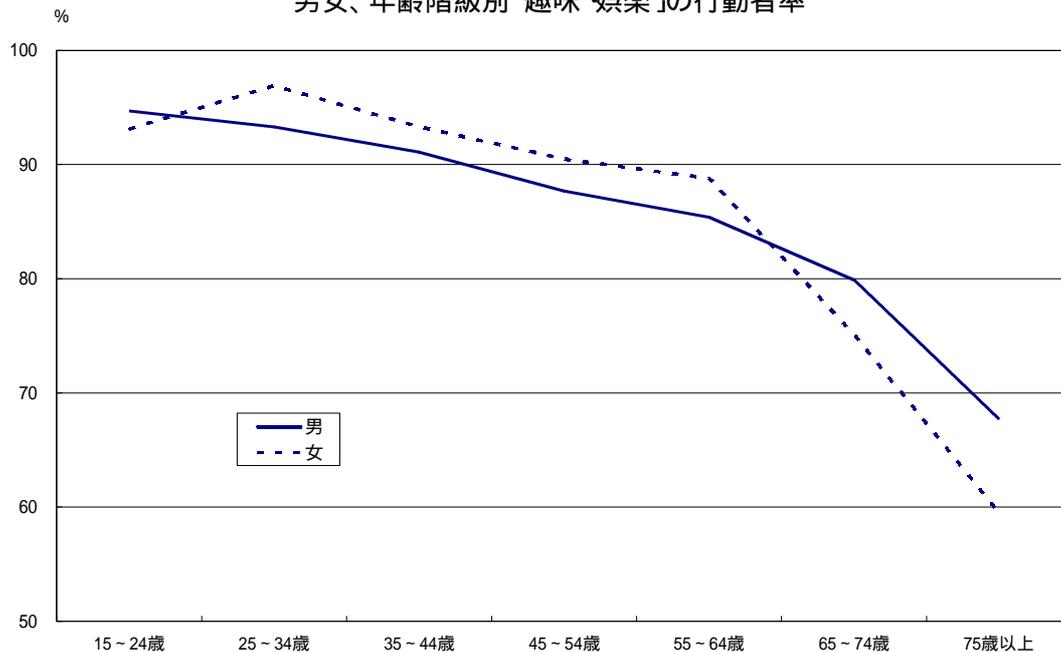
行動者率を男女別に見ると、男性は87.4%（行動者数52万2千人）、女性は86.8%（57万7千人）で男性が女性より高くなっている。これを平成13年と比較すると、男性は0.5ポイント上昇し、女性は0.3ポイント、低下している。

25～34歳で高い行動者率

「趣味・娯楽」の行動者（15歳以上人口）率を年齢階級別にみると、25～34歳で95.1%と最も高くなっており、年齢が高くなるにつれておおむね低下している。行動者率を男女別にみると、25～64歳を除き、男性が女性より高くなっている。



男女、年齢階級別「趣味・娯楽」の行動者率



行動者率の高い「CD・テープ・レコード等による音楽鑑賞」

「趣味・娯楽」を行った人を種類別にみると、「CD・テープ・レコード等による音楽鑑賞」69万8千人（行動者率55.3%）と最も多く、次いで、「DVD・ビデオ等による映画鑑賞」が60万人（47.5%）、「趣味としての読書」が57万人1千人（45.2%）の順となっている。

種類別の行動者率を全国平均と比較すると、「園芸・庭いじり・ガーデニング」、「映画鑑賞（テレビ・ビデオ・DVD等は除く）」、「趣味としての読書」の順で上回り、逆に「パチンコ」、「スポーツ観覧（テレビ・DVD等は除く）」、「邦舞・おどり」の順で下回っている。

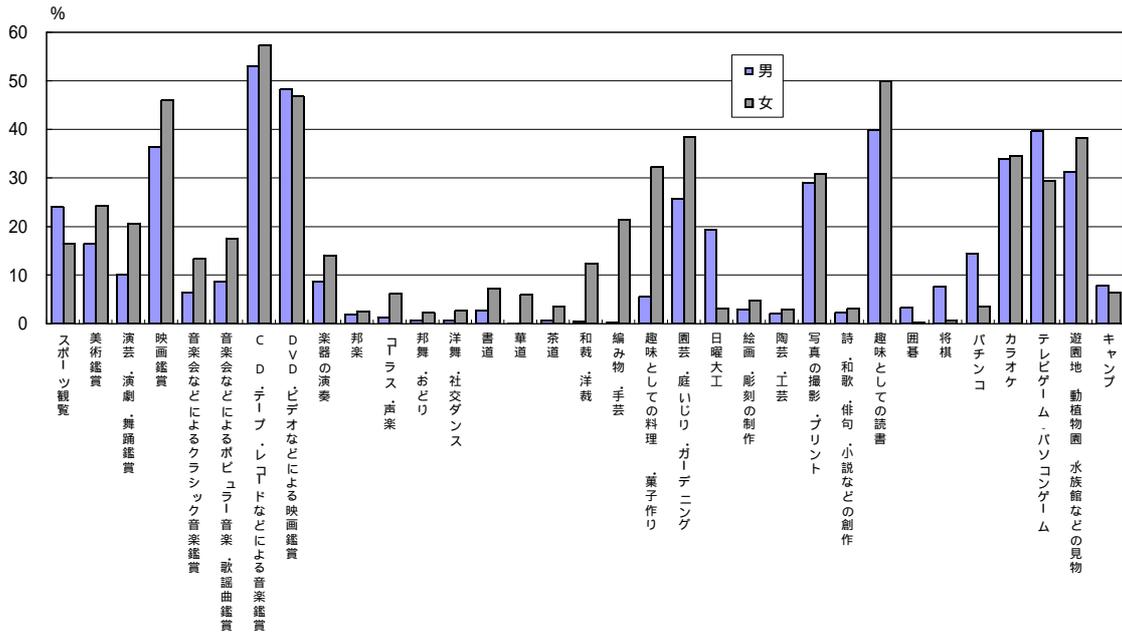
年齢の違いにより特徴がある「趣味・娯楽」の種類

「趣味・娯楽」の種類別行動者率を年齢階級別にみると、15~54歳では、「CD・テープ・レコード等による音楽鑑賞」が最も高く、次いで、「DVD・ビデオ等による映画鑑賞」となっているが、3番目に行動者率の高い種類は年代によって異なり、15~34歳では、「テレビゲーム・パソコンゲーム（家庭で行うもの携帯用を含む）」、35~44歳では、「遊園地、動植物園、水族館等の見学」、45~54歳では、「趣味としての読書」となっている。55歳以上では、「園芸・庭いじり・ガーデニング」が最も高く、次いで、「趣味としての読書」となっているが、3番目に行動者率の高い種類は年代によって異なり、55~74歳では、「CD・テープ・レコード等による音楽鑑賞」、75歳以上では、「カラオケ」となっている。

行動者率が上昇した「テレビゲーム・パソコンゲーム（家庭で行うもの携帯用を含む）」

平成13年と比較可能な「趣味・娯楽」の種類について行動者率をみると、上昇幅の大きい順に「テレビゲーム・パソコンゲーム（家庭で行うもの携帯用を含む）」（3.8ポイント）、「映画鑑賞（テレビ・ビデオ・DVD等は除く）」（2.9ポイント）、「スポーツ観覧（テレビ・DVD等は除く）」（0.8ポイント）などとなっている。また、低下幅の大きい順に「カラオケ」（5.8ポイント）、「園芸・庭いじり・ガーデニング」（5.1ポイント）、「日曜大工」、「パチンコ」（3.9ポイント）などとなっている。

男女別「趣味・娯楽」の種類別行動者率



- ～ テレビ・DVDなどは除く。
- テレビ・ビデオ・DVDなどは除く。
- テレビからの録画は除く。
- 民謡，日本古来の音楽を含む。
- 家庭で行うもの携帯用を含む。

5 ボランティア活動

1年間に「ボランティア活動」を行った人は34万6千人、行動者率は27.4%

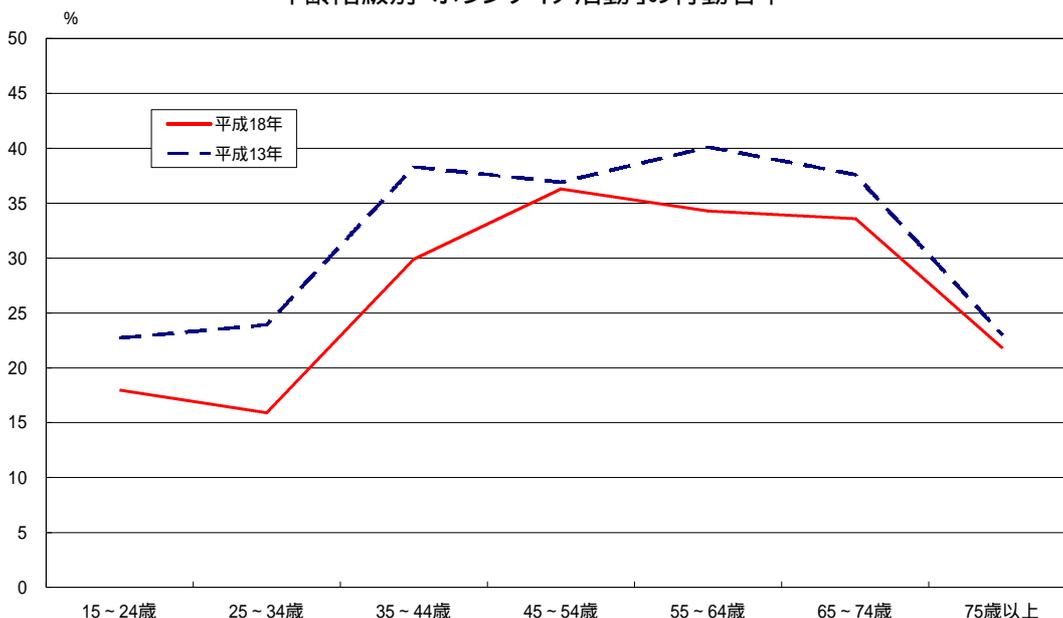
過去1年間に何らかの「ボランティア活動」を行った人は34万6千人で、10歳以上人口に占める割合（行動者率）は、27.4%で、全国平均より1.2ポイント上回っている。行動者率を平成13年と比較すると、4.8ポイント低下している。

行動者率を男女別に見ると、男性は27.5%（行動者数16万4千人）、女性は27.3%（18万1千人）で男性が女性より高くなっている。これを平成13年と比較すると、男性は3.1ポイント、女性は6.3ポイント、低下している。

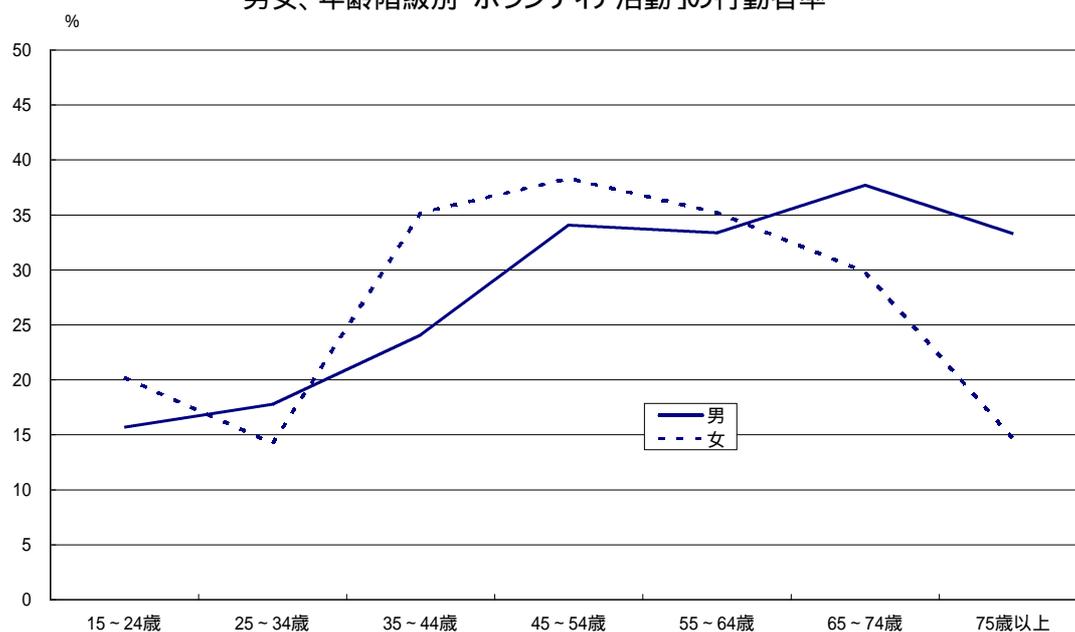
45～54歳で最も高い「ボランティア活動」の行動者率

「ボランティア活動」の行動者（15歳以上人口）率を年齢階級別にみると、45～54歳で36.3%と最も高く、逆に25～34歳が15.9%と最も低くなっている。平成13年と比較するとすべての年齢階級で低下している。行動者率を男女別にみると、男女とも45～54歳で高くなっている。（男性34.1%、女性38.3%）

年齢階級別「ボランティア活動」の行動者率



男女、年齢階級別「ボランティア活動」の行動者率



行動者率が最も高いのは「まちづくりのための活動」

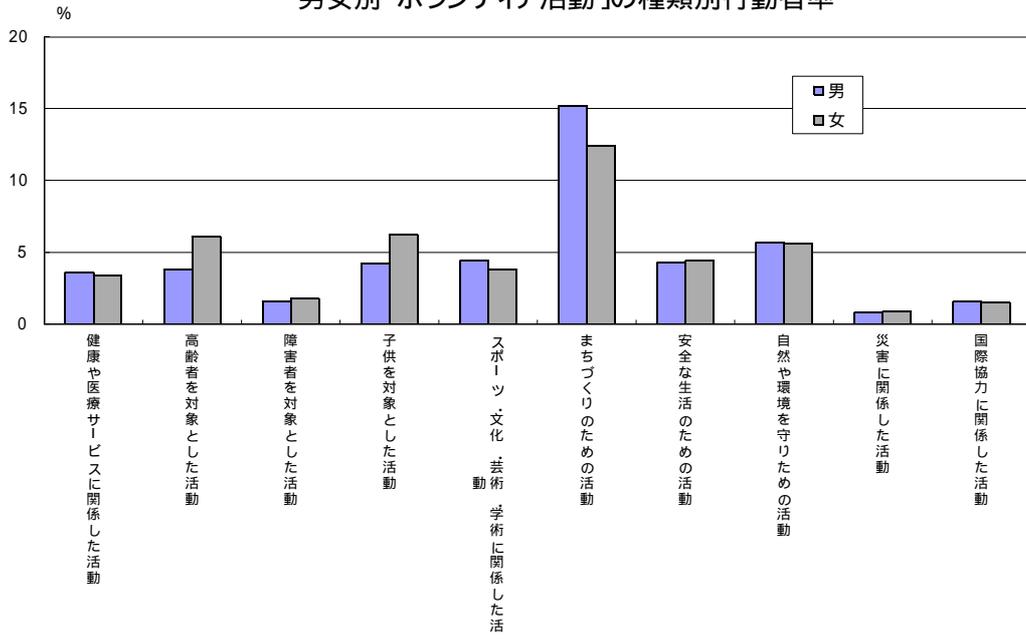
「ボランティア活動」を行った人を種類別にみると、「まちづくりのための活動」が17万3千人（行動者率13.7%）と最も多く、次いで、「自然や環境を守るための活動」が7万1千人（5.6%）、「子供を対象とした活動」が6万人3千人（5.3%）となっており、「まちづくりのための活動」の行動者率は、全国平均より1.7ポイント上回っている。

「子供を対象とした活動」の行動者率が高い35～44歳の女性

「ボランティア活動」の行動者（15歳以上人口）率が高い種類を男女ごと年齢階級別にみると、「安全な生活のための活動」は、男性は65～74歳で、女性は35～44歳で最も高くなっている。「まちづくりのための活動」は、男性は65～74歳で、女性は45～54歳で最も高くなっている。

また、男性と女性で行動者率の大きさが年齢階級で大きく違う種類をみると、「子供を対象とした活動」は、35～44歳の女性が際立って高い。

男女別「ボランティア活動」の種類別行動者率



6 旅行・行楽

1年間に「旅行・行楽」を行った人は99万人、行動者率は78.4%

過去1年間に何らかの「旅行・行楽」を行った人は99万人で、10歳以上人口に占める割合（行動者率）は、78.4%で、全国平均より2.2ポイント上回っている。行動者率を平成13年と比較すると、5.9ポイント低下している。

行動者率を男女別に見ると、男性は77.9%（行動者数46万5千人）、女性は78.9%（52万5千人）で女性が男性より高くなっている。これを平成13年と比較すると男性は5.3ポイント、女性は6.3ポイント、低下している。

旅行・行楽の種別別行動者数 行動者率

	総数		男		女				
	行動者数(千人)	行動者率(%)	行動者数(千人)	行動者率(%)	行動者数(千人)	行動者率(%)			
総数	990	78.4	(-5.9)	465	77.9	(-5.3)	525	78.9	(-6.3)
行楽(日帰り)	787	62.3	(-8.3)	356	59.6	(-8.1)	431	64.8	(-8.4)
旅行(1泊2日以上)	853	67.5	(-5.3)	407	68.1	(-5.5)	446	67.0	(-5.2)
国内旅行	830	65.7	(-5.3)	394	65.9	(-6.0)	436	65.4	(-4.8)
観光旅行	681	53.9	(-6.4)	314	52.6	(-7.5)	367	55.1	(-5.3)
帰省・訪問等の旅行	330	26.1	(-0.8)	148	24.8	(-1.1)	181	27.3	(-0.5)
業務出張 研修 その他	184	14.5	(-1.4)	131	21.9	(-3.7)	53	7.9	(+0.7)
海外旅行	150	11.8	(-2.6)	76	12.7	(-1.2)	74	11.1	(-3.8)
観光旅行	127	10.0	(-2.4)	56	9.3	(-1.4)	71	10.7	(-3.3)
業務出張 研修 その他	35	2.7	(0)	27	4.6	(+0.4)	7	1.1	(-0.3)

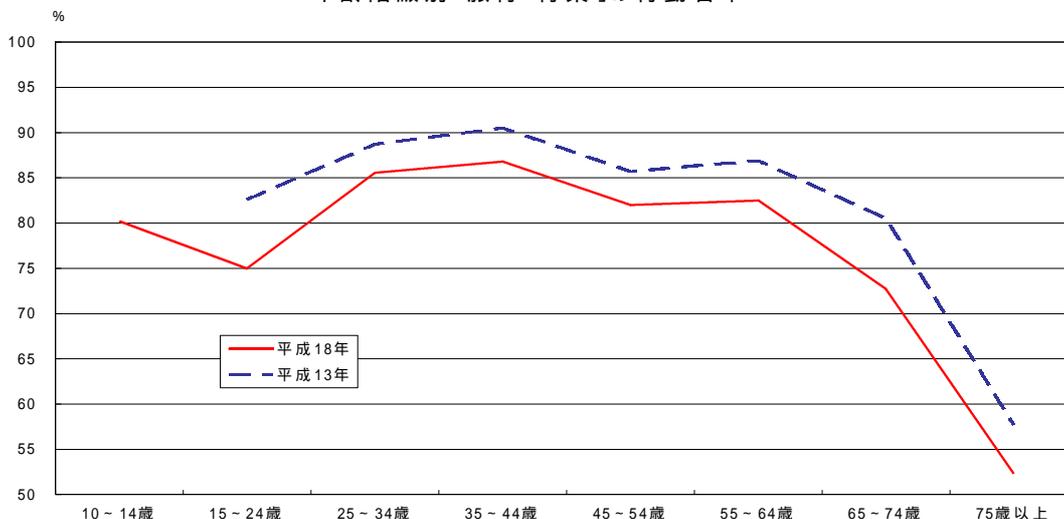
()内は平成13年との比較

男性の30～40歳代、女性の20～30歳代で最も高い行動者率

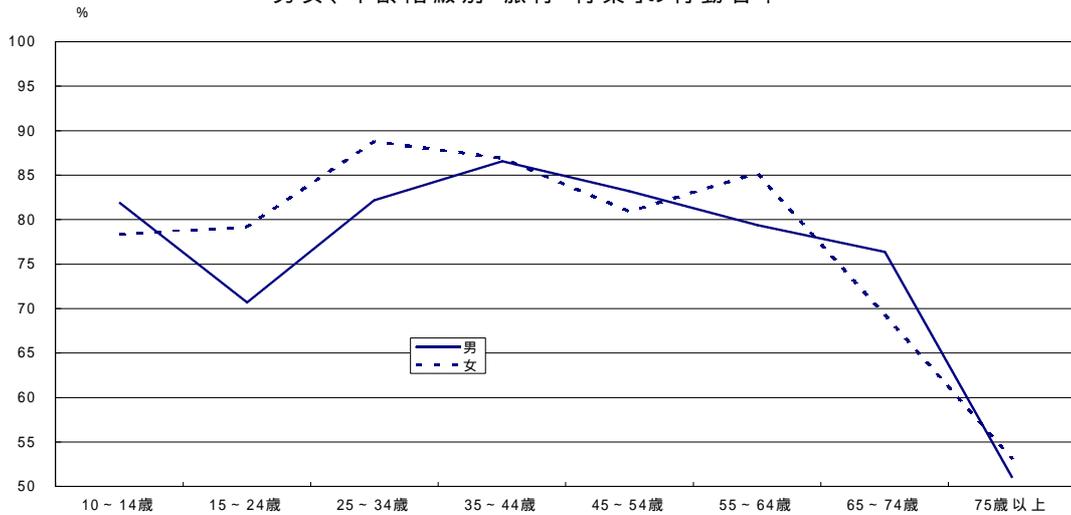
「旅行・行楽」の行動者率を年齢階級別にみると、35～44歳で86.8%と最も高くなり、年齢が高くなるに従っておおむね低下している。平成13年と比較するとすべての年齢階級で低下している。特に、65～74歳で低下幅が最も大きく、7.8ポイントとなっている。

また、男女別に見ると10～14歳、45～54歳、65～74歳を除き女性の方が男性より高くなっている。

年齢階級別「旅行・行楽」の行動者率



男女、年齢階級別「旅行・行楽」の行動者率



「行楽」(日帰り)より「旅行」(1泊2日以上)の方が高い行動者率

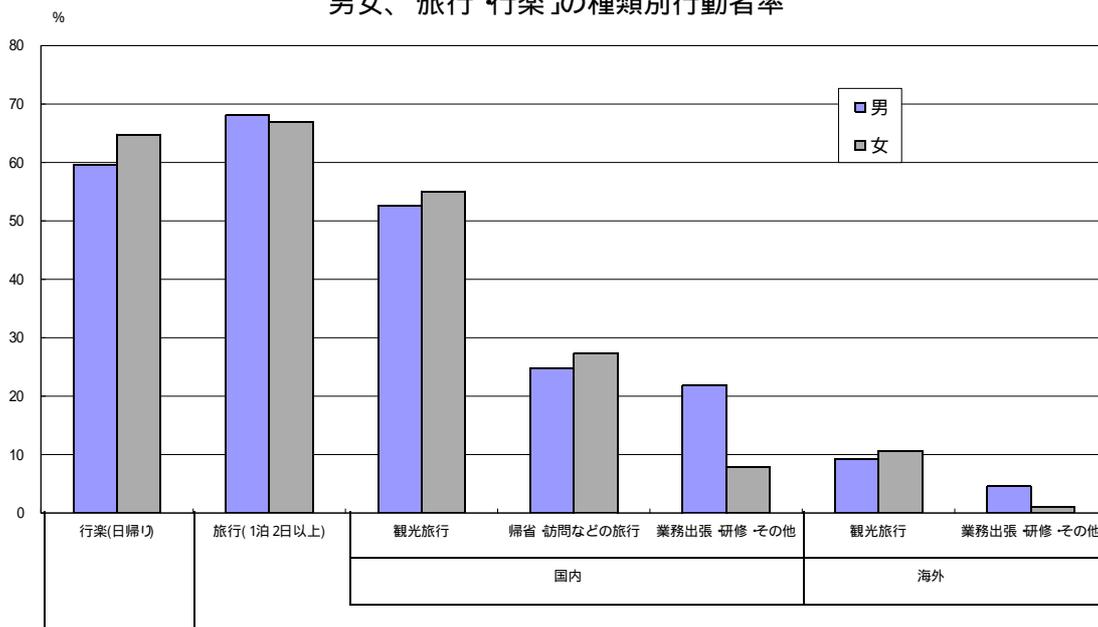
「行楽・旅行」の行動者率を「行楽」(日帰り)と「旅行」(1泊2日以上)に分けてみると、「行楽」は62.3%(行動者数78万7千人)、「旅行」は67.5%(85万3千人)と「旅行」の方が高くなっている。これを平成13年と比較すると、「行楽」は8.3ポイント、「旅行」は5.3ポイントそれぞれ低下している。

「行楽」(日帰り)の行動者率は、ほとんどの年齢層で女性が男性より高い

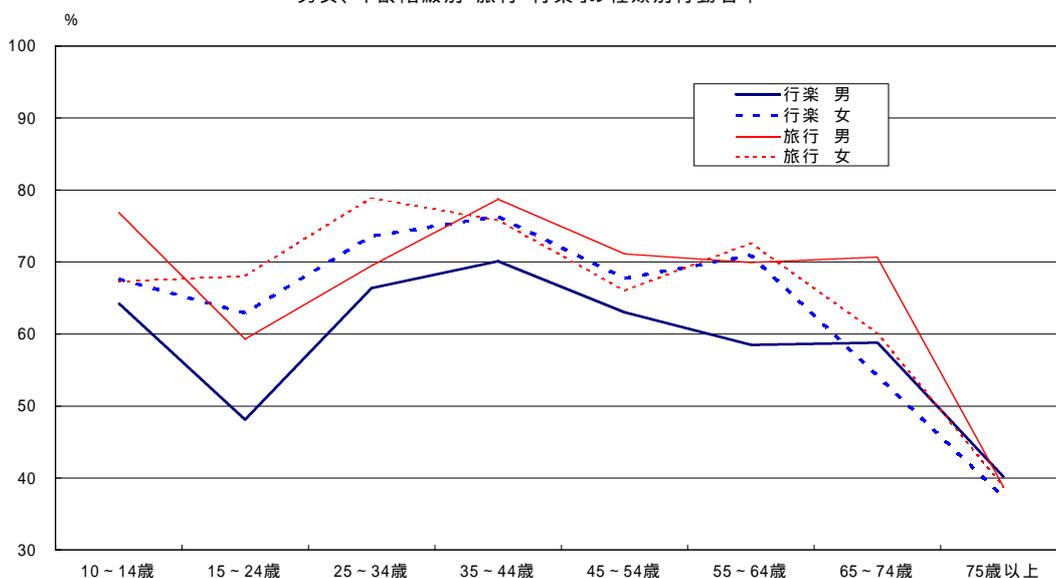
「行楽」と「旅行」の行動者率を男女別にみると、「行楽」は男性が59.6%、女性が64.8%、「旅行」は男性が68.1%、女性が67.0%となっており、「行楽」は女性の方が高く、「旅行」は男性の方が高くなっている。

ただし、「旅行」を種類別にみると、男性が女性より高いのは「業務出張・研修・その他」だけであり、「観光旅行」、「帰省・訪問等の旅行」では、女性が男性より高くなっている。これを年齢階級別にみると、「行楽」では65歳以上を除くすべての年齢階級で女性の方が高くなっている。

男女、旅行「行楽」の種類別行動者率



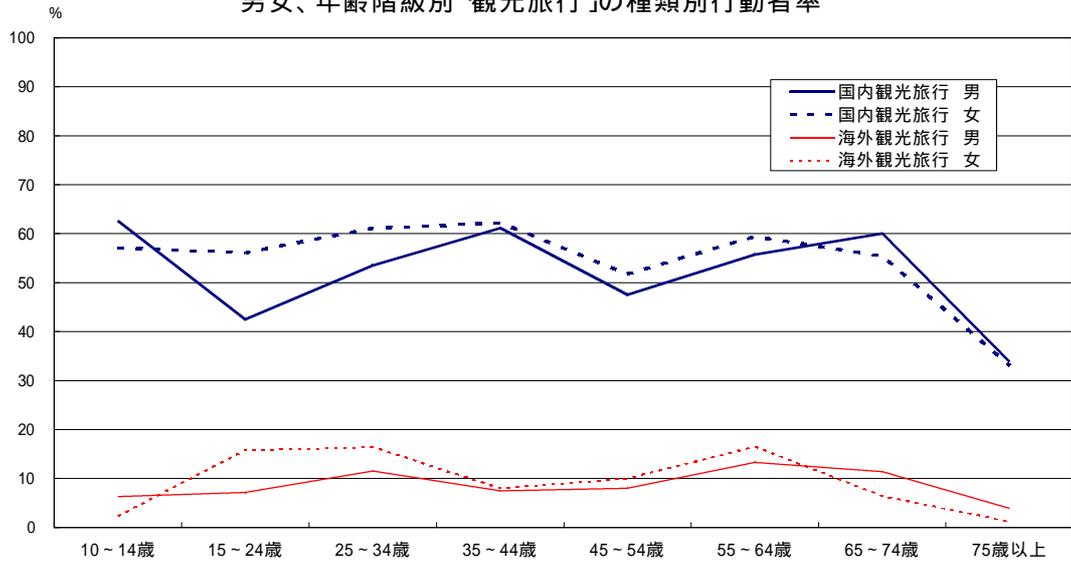
男女、年齢階級別「旅行」「行楽」の種類別行動者率



男性、女性ともおおむね10人に1人は海外観光旅行へ

「旅行」の行動者率をその種類別にみると、国内「観光旅行」は男性が52.6%、女性が55.1%、海外の「観光旅行」は男性が9.3%、女性が10.7%と、いずれもわずかではあるが、女性が男性より高くなっている。これを年齢階級別にみると、国内、海外とも「観光旅行」では、10~14歳、65歳以上を除く年齢階級で女性が男性より高くなっている。

男女、年齢階級別「観光旅行」の種類別行動者率



社会生活基本調査実施の概要

1 調査の目的

社会生活基本調査（総務省所管指定統計第 114 号）は国民の生活時間の配分及び自由時間における主な活動について調査し、国民の社会生活の実態を明らかにすることを目的として、昭和 51 年の第 1 回調査以来 5 年ごとに実施されており、平成 18 年で 7 回目の調査となる。

2 調査の期日

平成 18 年 10 月 20 日（金）午前 0 時現在
ただし、「生活時間について」は、10 月 14 日（土）から 10 月 22 日（日）までの 9 日間のうち、調査区ごとに指定された連続する 2 日間

3 調査の対象

総務大臣が指定する調査区（調査票 A……約 6,350 調査区、調査票 B……約 350 調査区）の中から総務大臣が定める方法により選定された世帯（約 8 万世帯）の 10 歳以上の世帯員（約 20 万人）が対象。

奈良県においては、124 調査区（調査票 A……120 調査区、調査票 B……4 調査区）の約 1,500 世帯の 10 歳世帯員約 4,000 人が対象。

4 調査事項

調査票 A……過去 1 年間の生活行動及び 1 日の生活時間の配分について、行動をあらかじめ決められた分類にあてはめて記入する。

調査票 B……1 日の生活時間の配分について、行動を日誌のように自由に記入する。